

3年4カ月ぶりに教育長不在が解消

杉山広充教育長が 新しく就任しました



将来、「たくましく生きていける人材」を育てることを目標に、基本となる学校教育の中で「自ら学ぶ意欲」を育成したいと抱負。6月1日、教育長に就任した。任期は平成28年5月31日までの4年間。

すぎやま ひろみつ
杉山 広充

◆プロフィール

昭和26年3月18日生まれ、61歳。徳山区在住。静岡大学教育学部卒業後、昭和49年4月より教員となり、教職在籍は33年間。趣味は読書、好きなスポーツはソフトボールと野球。座右の銘は「流水不腐」。子どもが3人おり、現在は妻と二人暮らし。

◆経験した主な役職

- 平成10年4月 中川根町立中川根第一小教頭
- 平成14年4月 吉田町立中央小教頭
- 平成16年4月 本川根町立南小教頭
- 平成18年4月 川根本町立中川根第一小教頭
- 平成19年12月 (株)バイス取締役副社長
- 平成24年5月 同会社退職



杉山教育長に抱負を聞いた

—町の教育行政の課題とそれをどう改善したいか？

まず、少子高齢化が進む本町の実態を的確に把握する。そして、子どもからお年寄りまでが生き生きと学び、自己を高めていくことができる学習環境を整え、学習の機会を増やしたい。

児童・生徒数の減少に適した学校教育のあり方を保護者や地域・町民みなで話し合い熟慮検討したい。これに、ふさわしい組織をつくり、慎重に進める。

これらを推進するには、行政、地域(町民)、学校の連携が重要であり、必須だと考える。

—どんな教育を目指すか？

将来、町内はもち

ろん他の地域(日本・国外)においても、たくましく生きていける人材を育てたい。基本となるのは、学校教育だと考える。その中で、「自ら学ぶ意欲」を育成したい。

学校における授業では、特に「思考力」育成の場。機会の設定が大切である。





通常の葉④と比べて、葉の色が薄く白黄色なのが特徴の「白葉茶」⑤



川根本町売れるものづくり事業費補助金を活用

白い葉のお茶？ 水川の茶園で「白葉茶」の摘採

川根奥大井茶生産力強化推進協議会は5月23日、
収穫前の茶園に被覆を行い、遮光することにより白黄色になった
「白葉茶」を手摘みしました。“高貴な味”と好感触な仕上がりに。

5月23日、「川根奥大井茶生産力強化推進協議会」（永田喜久司会長）は本町水川の協議会茶園で、「白葉茶」の摘採をしました。

うまみ成分が約3倍に

「白葉茶」とは、収穫前の茶園に被覆を3枚重ねにして太陽の光を遮ることにより、光合成を止めて、白黄色になったもの。茶のうまみ成分であるアミノ酸含有量が3倍ほどに上がるといふ。県農林技術研究所茶業研究センター（菊川市）が栽培技術を開発し、JANAなどと試験製造しており、川根茶では初めて。協議会は、川根共同製茶組合、(有)川根香味園、(株)澤本園、JANA大井川、県農林事務所、役場産業課などの支援を受け実施しました。

川根茶に付加価値を

この取組は「川根本町売れるものづくり事業費補助金」の助成を受け、川根茶に付加価値を付けようと試験的に始めました。将来的には販売を目指すとのこと。



被覆を外してすぐに手摘みされました



乾燥後の葉も通常④より色が薄い「白葉茶」⑤

試飲した会員からは「苦味、渋味が少なく、甘みと品のある高貴な味。60℃から70℃のお湯で入れるとおいしい」と好評でした。

後日、永田会長から製茶された「白葉茶」が、佐藤町長に贈られ、町長もおいしそうに飲んでいましたよ。